

柏木教会月報

東京都新宿区北新宿3-1-18 ☎03-3368-2156 www.church.ne.jp/kashiwagi/

身を低くする神

マルコによる福音書一章九〇一一節

牧師 富永 憲司

そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来て、ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられた。（九節）

マルコは、主イエスのお生まれやお育ちなど、何の興味も示しません。ただこの一事が大事であるかのように、主イエスは「ヨハネから洗礼を受けられた」お方である、と紹介するのです。

人間は、どこで神とお会いすることができるのでしょうか。

このことについて、人はどれだけ迷つてきただかわからぬのです。だれもが思いつく答えは、「神は天にいたもう。だから、わたしども天の高みに上ろう」というものです。しかし、バビロンの塔の故事が示すように、天の高みに上ろうとする人間のどんな超人的企みも、決して成功しないでしょう。ただ神ご自身が、天に上ることのできない人間のために、身を低くして、降りてきてくださる以外、神と人の出会いは起こらないのです。そこで、旧約の民は、天を見上げて、神に祈り続けたのです。「どうか、あなたが天を裂いて下つてくださいますように」（イザヤ六四・一、口語訳）、と。

ただし、その祈りを口にする民の多くは、やがてこう考えるようになりました。聖なる神がおいでになるなら、当然、この地上の特別に聖なる場所においてになるに違ひな

い。そのところで、神にふさわしい聖なる正しい人間だけが選ばれて、特別に神にお会いできるにちがいない、と。ですから、神がエルサレムではなく荒れ野に、しかも聖なる人間の間にではなく、悔い改めの洗礼を受けねばならないような罪人の間に、やつておいでになつたというようなお話は、とんでもないことであつたことでしょう。しかし、事実、神の子は、罪人たちのもとへ、洗礼を通して、身を低くしておいでになつたのでした。

マルコは、その時、「天が裂けた」（一〇節）と記します。正確にいうと、「天が裂かれた」のです。主イエスの洗礼のとき、神ご自身が天をお裂きになつたのです。そして、罪のために天と地にかけ離れていた神と人との交わりを、神ご自身が切り開いてくださったのです。

さらに、その時、天からは聖霊が降り、「これは私の愛する子。わたしの心に適う者」という声が告げられました。天の窓を開いた神は、聖霊とみ言葉によつて、主イエスがわたくしども罪人たちと洗礼において一つとなり、罪の贖いと新しい命を切り開いてくださることを、喜び、支持なさつたのです。

洗礼は、イエス・キリストの十字架と復活に合わせられることです（ローマ六・四）。わたしどもは、このお方の死と命に与る洗礼によって、まことに新しい人間として生まれ変わさせていただくのです。こうして、わたしどもまた、洗礼のときに聖霊を受け、主イエスゆえに、「あなたはわたしの子、わたしの心に適う者である」という神のみ言葉を聞くのです。まことに、キリストにあつて賜る聖靈は、「子たる身分を授ける靈」だからです（ロマ八・一五）。